壬生野小だより

伊賀市立壬生野小学校　2026.9.28



全国学力・学習状況調査の結果から

学校は、どの子にとっても興味深くわかる授業を行い、子どもたちが確かな学力を身につけることをめざしています。

確かな学力を身につけることは、進路選択を広げ、「夢の実現」につながるとともに、「勉強がわかること」「学力が向上すること」は、子どもたちの自信となり、生き生きとした豊かな人間形成を促します。

１学期、6年生は文部科学省が作成した「全国学力・学習状況調査」を受けました。その結果と今後の取組をお伝えします。

１．教科の正答率について

教科	結果
国語	全国と比較して、やや上回っている。
算数	全国と比較して、下回っている。

※個々の学校の数値は公表できないことになっているため、上記のような表記にさせていただきます。

※以下に各教科の項目別の結果を記載いたします。表の見方は以下の通りです。

表記	結果	
◎	全国と比較して上回っている。	全国正答率に対して＋５%以上。
○	全国と比較してやや上回っている。	全国正答率に対して＋２%以上＋５%未満。
―	全国と比較してほぼ同じ。	全国正答率に対して±２%未満。
△	全国と比較してやや下回っている。	全国正答率に対して－２%以上－５%未満。
▲	全国と比較して下回っている。	全国正答率に対して－５%以上。

（１）国語では

分類	内容	結果
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	◎
	情報の扱い方に関する事項	○
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	▲
	書くこと	○
	読むこと	◎

◎特に本校の正答率が高かった事項（全国と比較して＋１０％以上）

出題の趣旨	全国比
学年別漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使う。	＋15.7%

▲特に本校の正答率に課題があった事項（全国と比較して－１０％以下）

出題の趣旨	全国比
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	－12.4%
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	－11.1%

※同趣旨の２問題において、正答率がともに低い状況があります。

（２）算数では

内容	結果
数と計算	△
図形	▲
測定	▲
変化と関係	▲
データの活用	△

◎特に本校の正答率が高かった事項（全国と比較して＋１０％以上）

出題の趣旨	全国比
示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。	＋15.7%

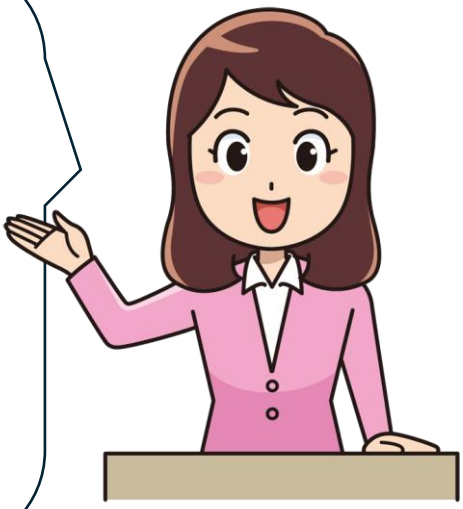
▲特に本校の正答率に課題があった事項（全国と比較して－１０％以下）

出題の趣旨	全国比
直方体の箱の形を構成する面について理解している。	－19.5%
体積の意味について理解している。	－18.4%
日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できる。	－10.4%
百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる。	－27.0%
単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる。	－10.0%
基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。	－21.2%
二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。	－13.6%



全国学力・学習状況調査の結果から、本校の課題を分析しました。国語では、学校や家庭で反復して練習している漢字については高い正答率となっています。しかし、絵や表等の資料を活用し解答する問題に課題がありました。算数においては、特に立体図形の領域と、割合の領域に課題がありました。問題（解答）形式には選択式・短答式・記述式とありますが、記述式が特に低い正答率ということはなかったため、書く力については、一定ついていると考えられます。

正答率に課題があった問題は、どのような問題だったのかを検証します。国語では、問題文の中に表や図など、様々な情報があり、それを整理・イメージしながら解答を求められる問題に課題がありました。基本的な部分は理解しているものの、長文や多くの情報があった場合問題自体を読み切れていない、整理・理解し切れていないのではないかと考えられます。また算数において課題のあった立体図形を取り扱う問題においても、単に体積を求める基本的な問題については一定数正答できているものの、立体の形をイメージしながら解答する問題に課題がありました。また、問題文中の必要な情報だけを集めて解答する部分にも課題がみられました。割合については、問題の傾向問わず、全体的に課題があったため、復習が必要と考えます。



(2) 図1のような直方体の箱があります。

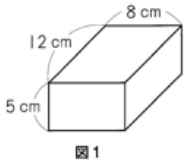


図1

図1の箱には6つの面があり、下の長方形はそのうちの4つの面です。

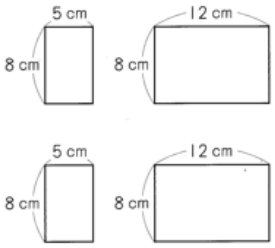


図1の箱には、上の4つの面のほかに、形も大きさも同じ2つの長方形の面があります。その長方形の縦と横のそれぞれの長さを書きましょう。

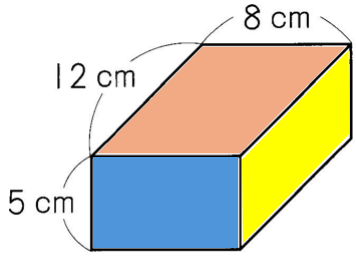
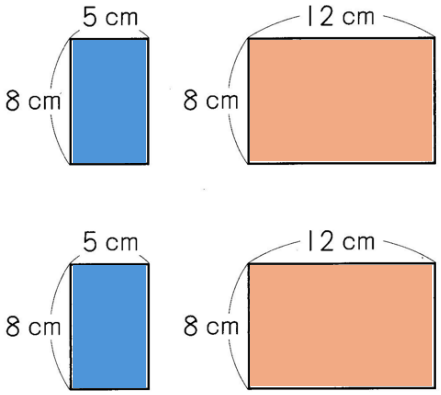


図1





この問題は、立体の形をイメージしながら解答します。求められている面は、黄色の面なので、縦が5cm、横が12cmになります。基本的な問題ですが、面を頭の中で組み立てていき、形のイメージをもちながら考える必要があります。

(3) 1 cm³ の立方体が 36 個あります。36 個をすべて使って、高さが 4 cm の直方体を 1 つ作りました。

その直方体の体積は何 cm³ ですか。

答えを書きましょう。

――― だけが必要な情報で、計算しなくても答えが36c㎥だとわかります。―――の部分まで考えてしまうことで間違いやすくなります。

この問題は、問題文の中から必要な情報のみを取捨選択して解答する問題です。必要ない情報を取り除けば、非常に簡単な問題ですが、読み解けずに正答率が低い状況がありました。



２．児童質問紙（アンケート）結果について

１学期末にも全校児童を対象に学校アンケートを実施しましたが、以下に結果を記載するのは、文部科学省が作成し６年生が行った「全国学力・学習状況調査児童質問」の結果です。

（１）児童質問紙から見えてくる、子どもたちの学習に対する姿勢。

調査項目	肯定的回答
国語の授業の内容はよく分かりますか。	95.6%
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。	100%
算数の授業の内容はよく分かりますか。	95.7%
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。	100%

この結果からも、子どもたちは国語や算数等、学習にしっかりと向き合っていることがわかります。全国平均と比較しても、高い状況にあります。

（２）児童質問紙から見えてくる、日常生活と学力との関連性

調査項目	肯定的回答
学校の授業以外に、普段１日あたり 10分以上読書をする。	56.4%
普段（月曜日から金曜日）、１日当たり１時間以上、スマートホンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをする。	73.8%

しかしながら、読書や書物にふれあう時間（１０分以上）が、６０％未満となっています。一概には断定できませんが、学力調査の結果分析からも、言語活動の少なさが、問題文を読み解く力に影響していると考えることができます。学校では継続的に「朝の読書」に取り組みますので、ご家庭でも、スマートホン等を使用する時間を少し短くするなどして、１日10分以上読書をする習慣にご協力ください。

（３）児童質問紙から見えてくる、家庭学習の状況

調査項目	肯定的回答
学校の授業以外に、平日１日１時間以上勉強しますか。	69.5%
土曜日や日曜日など学校が休みの日、１日１時間以上勉強しますか。	69.5%

ご家庭での家庭学習の時間については、全国と比較して、決して低い数値ではありません。ただし学校としては、６年生（高学年）は１日１時間以上の家庭学習を目標にしています。是非ご家庭でも、宿題と自主学習含め、１日に低学年は２０分、中学年は４０分、高学年は６０分以上と、時間を決めて学習するように、お声かけいただければと思います。



小学校での学習は、一生涯つかう「読み」「書き」「計算」「考える力」の土台をつくるために必要です。また他者と関わる力や、自分を守る力も育みます。さらには、子どもたち自身の将来の進路や、仕事等の選択肢を広げるためのものでもあります。これからの時代を生きていく子どもたちに、確かな学力をつけていきたいと考えておりますので、ご家庭でのご協力をお願いいたします。